



# No.134



リモートで芸術鑑賞会♪【田柄福祉園】



久しぶりの宿泊行事【田柄福祉園】



世界的な観光地である浅草ならではの四季を味わうことができます【浅草みらいど】



地域のイロドリとなるようチャレンジをしています【浅草みらいど】

## INDEX

令和4年度第1回総会報告…………… 2	人権擁護委員会「じんけん Board」…………… 6
令和4年度虐待防止・権利擁護研修報告…………… 3	施設紹介「浅草みらいど」…………… 8
保健医療スタッフ会学習会報告…………… 4	施設紹介「田柄福祉園」…………… 9
支援スタッフ会学習会報告…………… 5	リレーコラム、編集後記…………… 10

●発行者 知的発達障害部会 部会長 小池 朗 ●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  東京都社会福祉協議会

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●知的発達障害部会ホームページ (<https://www.tcsw.tvac.or.jp/bukai/chitekisyogai.html>) からご覧いただけます。



# 令和4年度 第1回総会報告

広報委員 坂口 啓 (調布福祉園)

令和4年度第1回の総会は前回と同様にWebでの開催となりました。「議決事項」「報告事項」「講演」については、総会資料を郵送するとともに、令和4年5月25日(水)～令和4年5月31日(火)の期間、部会会員専用ホームページ上で説明動画を公開。「議決事項」は文書審議にて決議を採りました。また、総会と合わせて開催された「東京都の行政説明」は令和4年5月26日(木)14:00～15:15にzoom ウェビナーにてライブ配信されました。

## ●議決事項

- ①令和3年度事業報告について、②令和3年度会計収支決算報告および会計監査報告について  
→これらの議決事項は後日文書審議にて決裁を採り、過半数の承認を得られたため可決されました。

## ●報告事項について

- ①令和4年度事業計画について、②感染症対策衛生用品の備蓄および災害見舞金のご案内、③東京都社会福祉協議会からの報告  
→事業計画については、各部会の代表者より今年度の重点目標について説明がありました。

## ●講演

「障害のある方々の望む多様な暮らしの実現に向けて～日本知的障害者福祉協会の取り組みから～」講師として日本知的障害者福祉協会 会長 井上 博 氏よりご講演をいただきました。これからの障害福祉サービスの在り方について、利用者本人を中心に「権利擁護」「社会生活支援の推進」「重度化高齢化への対応」「専門性の向上」と多角的な視点を持つことに加え、「良質な福祉人材の確保・育成」「サービスの質の評価の仕組みの構築」について考える必要がある。という内容に、改めて福祉・支援について考える良い機会となったのではないのでしょうか。貴重なご講演ありがとうございました。

## ●東京都の行政説明

- ①主要事業について、②新型コロナ対策関連事業について、③連絡事項  
→第2部にて、東京都福祉保健局障害者施策推進部、指導監査部、生活福祉部・東京都生活文化スポーツ局スポーツ総合推進部より、主要事業・新型コロナ対策関連事業について説明がありました。連絡事項では、令和4年度より義務化された虐待防止について、身体拘束の適正化についての説明がありました。

## 令和4年第1回

# 虐待防止・権利擁護研修報告

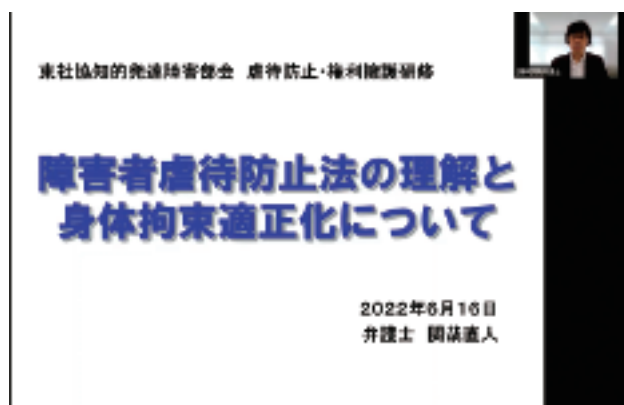
人権擁護委員会 渡辺 和生（八王子平和の家）

令和3年度の報酬改定に伴う運営基準の改正において、令和4年度より従事者に虐待防止研修、身体抑制等適正化のための研修が義務化されました。令和元年度より人権擁護委員会主催で行っている当研修に、新たに身体抑制等適正化を盛り込んだ内容で、令和4年6月16日に「令和4年度第1回虐待防止・権利擁護研修」をオンライン開催しました。

今回も多くの方の受講希望があり、数日で定員に達し、関心の高さが伺えると共に、受講できなかった方たちには大変申し訳ありませんでした。

今回は「障害者虐待防止法の理解と身体拘束適正化について」と題し、五百蔵洋一法律事務所の関哉 直人弁護士にご講義いただきました。法律の概要、目的、虐待の内容（身体・性的・心理的・ネグレクト・経済的）、身体拘束の例や手続き要件、早期発見義務、通報義務の後、報道事例の紹介から始まり、特に法律については、厚生労働省より示されている「障害者福祉施設等における障害者虐待の防止と対応の手引き（令和4年4月改定）」を使い、令和4年度から障害福祉サービス事業所等に義務化された虐待防止委員会設置、虐待防止責任者の配置、研修の実施等を含む改正後の運営基準について丁寧な説明がありました。

虐待の起こる構図としては、障害者の権利を侵害する「小さな出来事」から心身に傷を負わせる行為にまでエスカレートしていく事を挙げました。エスカレートしていく要因として、①「**言っても無駄**」「**言ったら不利益になる**」という本人・支援者の意識、②**意志表示が困難な特性**、③**福祉現場の自由度の高さ**が挙げられ、職員一人一人が



Zoom研修の様子

「小さな出来事」を意識する（内的要因）、現場レベルで共有する（外的要因）が重要であり、利用者の尊厳（一人の人として尊重しているか、本人の幸福追求を支援しているか）を大切にすることが説明されました。

その後グループワークへと進みます。ZOOMのブレイクアウトセッション機能を使い、4～5人のグループで自事業所における「小さな出来事」について共有し、尊厳についての意見交換が積極的に行われていました。価値観はそれぞれ違います。「誰が何を考えているのかわからない」状態だと、権利擁護の意識は共有できません。意識的に支援に関して話す場の設定が、虐待防止にとっては有効であります。まとめとして「虐待を考えることが権利擁護」「迷いや悩み自体が本質」「軸となる『尊厳』をとことん考える」ことが重要であると伝えられ研修が終了いたしました。

「同じ悩みを持つ方がいたことで、具体的な対応方法を話す機会ができた。」との受講生の声を聴き、この研修の必要性を強く感じました。

## 今年も「薬」に関する学習会を開催しました

保健医療スタッフ会 代表幹事 林 武文（日の出福祉園）

6月29日（水）に今年度第1回目の保健医療スタッフ会学習会「続・利用者さんが飲んでいる薬を知ろう！ー精神に作用する薬を中心にー」を開催しました。「続」とあるのは、昨年度も同じテーマの学習会を開催したからです。コロナ感染症のため、今回もオンライン（ウェビナー配信）開催でした。

昨年度は2人の医師に講師をお願いしましたが、今回は1人。昨年度に引き続き内科医の吉川健明医師の講義でした。今回も参加申し込み者から事前質問を募集し、吉川先生には昨年度で時間不足で回答できなかった質問と併せて回答を準備してもらいました。講義中の質問も多く、後半は先生にそれらを時間の許す限り回答してもらった怒涛のQ&Aコーナーでした。

薬について学ぶ学習会でしたが、今回の大きなテーマは「非薬物的対応」でした。抗生剤や解熱剤、緩下剤や利尿剤などの内科薬と違い、症状と薬効がストレートに結びつかないのが向精神薬です。不眠だからといって眠剤を飲めば自動的に眠れるわけではなく、眠るための環境を整えなければ身体はお休みモードになりません。また、気持ちの変化には具体的な理由があります。人間関係

のトラブルで落ち着かなくなったら、不穏時薬を飲んでもトラブルが解消するわけではありません。薬物療法でできることとできないことを整理すれば、医師、看護スタッフ、支援スタッフそれぞれの役割が浮かび上がってきます。WHOのICF（国際生活機能分類）は医学モデル一辺倒の障害観ではなく社会モデルの重要性を示していますが、吉川先生の講義は優しい語り口で社会モデルの大切さを私たち支援者に教えてくれました。

一方で、昨年度と違い向精神薬の定義や種類、作用と副作用などの系統立った講義ではなかったため、今年初めて参加した人には少しわかりにくかったかもしれません。参加者には昨年度の資料を今年の資料と併せて事前に配布しました。また時間不足で答えられなかった質問には、新たにQ&Aを先生に作成してもらっています。完成後に参加者に配布する予定です。

利用者さんが飲んでいる精神に作用する薬は、飲み忘れたり、一度に多量に飲むと生命に危険が及ぶものもあります。ことほどさように大切な薬ですが、他にも大切なことがあります。薬について考えることは支援を考えることだということを改めて学んだ学習会でした。

## 支援スタッフ会学習会報告

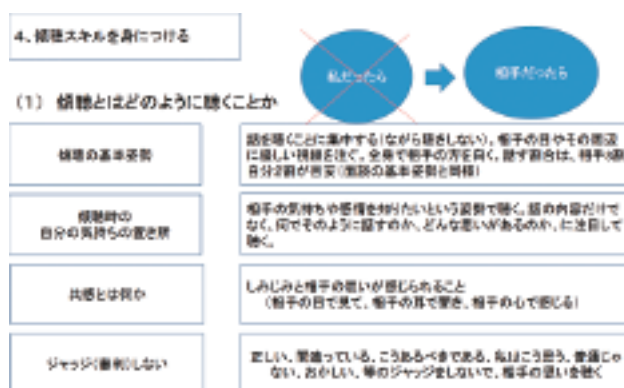
# 「利用者ご家族との信頼を築くコミュニケーションの在り方」について

支援スタッフ会 幹事 岡田 理沙子（原町成年寮）

令和4年7月20日に、今年度1回目の学習会を行いました。「利用者ご家族との信頼を築くコミュニケーションの在り方」をテーマとして、社会福祉法人南風会 シャロームみなみ風 施設長の廣川 美也子様にご講師を行っていただきました。

前半は、ご家族とのコミュニケーションについて、いくつか例を挙げながら講義をしていただきました。ご家族とお話する上で、職員側、ご家族側の双方が話をする準備ができていないと信頼関係の構築は難しいことを実感しました。また、家族面談時の基本姿勢についても学んでいます。印象的だったのは、話をする割合は相手が8割、自分が2割にする必要があるということです。家族面談では、職員側が伝えたいことが先行してしまい、ご家族が置き去りになってしまう場面が少なからずあると思います。ご家族の話を聴くことを意識することが、信頼関係の構築に繋がることを実感しました。

後半は、グループワークを取り入れながら、傾聴スキルについて学びました。事例の話を読み、頭に浮かんだことを記録し、1グループ3人～4人のグループで共有しました。グループワークでは、話を真剣に聴いているつもりでも、聞き間違いがあったり、自分の主観的な意見が頭に浮かんでしまったりすることに気付かされました。ここでは、「自分だったら」という考えは棚上げし、「相手だったら」という考えを念頭に置いて話を聴く



～学習会資料から抜粋～

ことが大切であることを学びました。また、1人でも行うことができる傾聴のワークも紹介いただきました。傾聴スキル向上に向けた日々のトレーニングが、ご家族との信頼関係構築に必要なのではないかと感じています。

また、今回はコロナの影響もありZOOMでの研修でしたが、グループワークも多めに取り入れていただきました。そのため、参加者同士のコミュニケーションも活発に行われており、自分だけでは気づけない考えを知ることができたと感じています。

今回の学習会を通じて、多くのことを学ぶことができました。利用者支援を行う上で、ご家族の存在はとても大切だと感じています。そのご家族とより良い関係を築くために、今回の学びを生かして支援をしていきたいと考えています。支援スタッフ会では、今後も現場に生かせる学習会の開催ができるよう活動していきたいと思っております。

# じんけん Board



わたしの



支援を通した利用者とのかわり、ご家族との会話の中や地域の方など人が集まる場所で偶然出会う瞬間に、「ニヤリ」としたり心が温かくなったりすることがあります。自分だけのものにしておくのは「もったいない」ので、「ホッと」な気持ちが広がっていくように書き留めてみました。

定期的に散歩や買い物の企画を行っている支援員ににやり。利用者の皆さんの楽しそうな様子を見てほっこりします。

ハキハキとしたご利用者への声かけ、見ているほうも明るくなります。

あいた時間でユニット等、掃除機をかけていた職員さん。いつも細かいところに気づいていて尊敬します。

落ち着かないご利用者がいた際に、他利用者の安全を確保するため早急に対応策を考え動いてくださった職員の皆様のにやりです。

時間になるといつも職員のお手伝いをしてくださるご利用者のにやり。

薬がなかなか飲めないご利用者に対し、明るい一言をかけた支援員。その一言のおかげで切り替えることができたのか、すぐに薬が飲めていました。

ご利用者とお手紙でコミュニケーションをとっていた支援員。日々の関わりもそうですが、とても優しい内容で素敵でした。

ご利用者の近況などを連絡帳へ丁寧に書く支援員。ご家族も安心できると思えました。

ユニットの装飾を頑張っていた支援員ににやり。部屋が彩られるとご利用者の気分も上がるのではないかと思います。

支援者の皆さんが『自分の仕事を振り返る』『権利意識を高める』きっかけになればとの想いを込めた川柳のコーナーです。皆さまの投稿お待ちしております。

最優秀作品

その支援  
自分がされたら  
考えよう

作：ポムポム

作品背景

向こうの部屋で待機してほしい利用者さんに「あそこ部屋で待ちましょう」と手を引っ張ったところ、「今のは嫌だった」とストレートに言われてしまいました。確かに。私だって手を引っ張られて誘導されたら嫌です。反省しました。

優秀作品

「上手だね！」  
モチベを上げる  
魔法の言葉

作：ホイップ

作品背景

とある利用者さんは、誉められるととっても頑張るタイプ。お仕事も、いろんな支援員から「上手だね！」「さすが！」「やれば出来る！」「すごいね！」など沢山誉めてもらい頑張っています。利用者さんをやる気にさせる魔法の言葉、他にもあるかな？

入選作品

コロナ禍で  
会えない貴方と  
交換ノート

作：スコーン

作品背景

新型コロナウイルス感染症予防から通所を自粛されている利用者さんと交換ノートを始めました。毎日のやり取りが楽しいです。元気そうで安心！。

職員は  
何と言っても  
安全基地

作：じいえむ

作品背景

意思決定で最も大切なのは「話しやすい場」

「足りないよ！」  
几帳面なところ  
助かります

作：マフィン

作品背景

作業中、利用者さんに「あと一つ、〇〇が足りない」とアピールされました。確認すると、確かに一つ足りない。気がついて良かったです。そんな几帳面なところに、いつも助けられています。

その方の  
それぞれの道  
ナビゲーション

作：森との対話

作品背景

それぞれの方の幸せの実現を、そっとサポートする私たち支援職。押し付けることなく、私たちは「こちらの道は？」とそんな存在でありたいなど。

投稿おまちしております

読者の皆さまからの投稿をお待ちしています。

- ① 「わたしのニヤリ・ホッと」
- ② 「誰か教えて！私の支援間違っていない？」
- ③ 「川柳ぼーど」

①②の投稿につきましては、紙面の都合上1,200字以内とさせていただきます。原則として原文のまま掲載いたしますが、場合によっては内容を損なわない範囲で加筆・修正させていただきます。尚、事例については、施設・個人名が特定できないようご配慮お願いいたします。

③の川柳のテーマは福祉に関係するものであれば構いません。

投稿は匿名でもお受けいたします(その旨記載してください)。手紙、FAX、メールとお好きな方法でお送りください。

手紙の場合

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1  
社会福祉法人 東京都社会福祉協議会  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

FAXの場合

03-3268-0635  
知的発達障害部会 人権擁護委員会 宛

メールの場合

東京都社会福祉協議会 知的発達障害部会 事務局  
chiteki@tcsw.tvac.or.jp宛に「じんけんboard投稿」とタイトルをつけて送信してください。

# 施設紹介

## 浅草みらいど

#だれでも何度でもチャレンジできる場所  
#ルーツ #ユニバース #フォレスト

### <浅草みらいどってどんな場所？>

浅草みらいどは、浅草駅から隅田川を北上した今戸（いまだ）の地に、令和3年3月に開所しました障がい者施設（就労継続支援B型、生活介護、グループホーム）です。

### <コンセプト>

- いつでも、だれでも、なんどでもチャレンジができる
- 多種多様な人がつながり、無限に可能性を感じることができる
- 自由に発想・創造しながら、社会の一員として、自己主張・発信ができる

### <事業所紹介>

#### —就労継続支援B型「ルーツ」定員10名—

それぞれの特技や特性を活かして、社会の一員として仲間と共に、楽しいことや辛いことを共有できる場所です。地域の方が立ち寄れる「IRODORI cafe'（イロドリカフェ）」は、白い空間にオーダーメイド家具とアートが飾られ、地元有名コーヒー豆店（バツハ）の監修の下、フレンチプレスコーヒーを提供。自家製のハーブやカラダにやさしい

素材を使用した焼き菓子を店内の厨房で製造しながら、地域にイロドリをそえています。

#### —2・3F 生活介護「ユニバース」定員25名（うち、重症心身障がい者5名）—

看護師や理学療法士、音楽療法士が常駐し、台東区内では初となる、都重心事業と併せて運営しており、重症心身障がい者の方も含め、住み慣れた地域で、より豊かな生活を送ることができるようサポートしています。

地元企業や産業の協力をいただきながら、ご利用者の自由な発想やアイデアを活かした商品開発を行っています。

#### —共同生活援助（グループホーム）「フォレスト」定員10名—

就労を継続しながら、その人らしい生き方の実現のために、多様なチャレンジをサポートしています。日常生活や就労などの悩みや相談ができる環境の中で、共に生きる仲間と社会での楽しみを増やすことができるよう、コロナ渦でも工夫をこらしたイベントを開催しています。



浅草みらいどHP  
(QRコード)



コロナ渦であっても縁があって出会った仲間と共に日常を楽しんでいます



どんな方でも来店することができるようご相談を承っています



多様な方が行き交い出会える場所として動き出しています



地元企業から提供があった端材でリメイク商品を開発しています



## 施設紹介

# 「田柄、一致団結！～今できることを楽しむ～」

### 【施設紹介】

田柄福祉園は、平成26年6月1日に社会福祉法人東京援護協会が設置運営する施設として東京都練馬区に開所しました。場所は東京都練馬区の中でも、近隣には緑や畑がたくさん残る自然豊かなところにあります。現在は45名のご利用者様と28名の職員が在籍しています。ご利用者様一人ひとりの社会経験を助け、生活を豊かにすることを目的として、法人立ならではの「独自性」を發揮した事業展開のもと、様々な活動やイベントを実施しています。活動は5つのグループに分かれて行っており、ご利用者様の障害特性や生活ペースに応じた環境で楽しく穏やかに過ごせるようになっています。

### 【今できることを楽しむ】

新型コロナウイルスの流行によって、全国各所の様々な行事が中止になりました。そんな中、田

柄福祉園のご利用者様と職員は「今できることをやっいてこう！！」と逆境をポジティブにとらえ、みんなで何ができるかを考えるようになりました。すると、DIYやVR、バーチャル旅行にリモートコンサート、テレビショッピングならぬリモートショッピング等、様々な意見が出てきて、今まで以上に普段の活動がバラエティーに富んだものになりました。また自主製品に関しても、マスク不足や値段の高騰のニュース等を見て、「たくさんの人たちがマスクを必要としている！」という声が上がリ、作ったことのないマスク製作が始まりました。子供から大人までつけてもらえるようにサイズや生地等を何度も改良し、今では多くの方の手に取ってもらえる人気商品になりました。

コロナ禍でも田柄福祉園の仲間たちはまぶしいくらいの明るさと元気で、日々を楽しんでいます。コロナ禍3年目に入り、中止されていた行事も少しずつ再開し始めました。未だ新型コロナウイルスが流行していますが、今までの経験を踏まえ、感染症対策をしっかりと徹底した新しい方法を模索しながら、withコロナで今をみんなで楽しんでいきたいと思ひます。田柄福祉園、一致団結！



驚きのVR体験



自慢の自主製品をリモートショッピング



初めてのDIYにチャレンジ☆

## 「地域共生社会の実現」の一步とは…。

社会福祉法人東京都手をつなぐ育成会 とぶき育成園  
施設長 根岸 京

先日、私が新任職員として入職した施設の近くに行く機会があり、20数年前に利用者の方とよく外食に行っていたお店がどうなっているのか気になり見に行っていました。コロナ禍の影響でどうなっているのか心配しましたが、お店は続けて営業されていました。

このお店は、利用者の方が快適に楽しく外食できるように、毎回、お店の方から「どうしたらいいですか。」「こうしましょうか。」といろいろな気遣いをしてくれるお店でした。例えば、テーブルや椅子の位置を座りやすいようにレイアウトを変更してくれたり、スプーンの大きさを何種類か用意してくれたり、服薬用の氷無しの水を用意してくれたり、来店すればするほど利用者の方が利用しやすいお店になっていきました。お店の方も、次回来店した時はもっと快適な空間になる事を楽しんでいるようでした。お店の方と利用者の方、職員が一緒になって楽しい外食の時間・空間・場所を作ってきたことを懐かしく思うと同時に、外食の活動でこのような店を増やしていき、利用者の方が少しでも住みやすい地域を作ることを目指したことを思い出しました。

「地域共生社会の実現に向けた取り組み」を目指している中、新型コロナウイルス感染症により、宿泊旅行や地域のお祭りの中止、制限のある中で外出活動など、地域での活動が大幅に減り、ほぼ事業所内での支援になっています。この2年間で地域生活を意識した支援が不足してきており、2年前に入職した職員は、入職した時は既にコロナ禍での利用者支援になっており、従来の利用者支援を経験していない状況です。新型コロナウイルスの収束がいつになるかわかりませんが、収束を願いつつ、徐々に事業所外での活動の準備・実施をしていく必要があります。この福祉の仕事は「直接、人と関わる仕事」であり、他にはない喜びや難しさがある仕事だと思います。そして、利用者支援は、利用者の方一人ひとりに合った支援を考えて、その人らしい生活・人生の実現に関わる事ができる醍醐味があります。利用者の方が「私の人生って幸せだなあ。」と感ずることのできる時間・空間・場所を増やしていき、障害がある人もない人もお互い尊重しながら生活できる「地域共生社会」に一歩ずつ近づけて行ければと考えています。

## 編集後記

皆さまのお手元に届くころには冬の足音が聞こえた季節かと思います。早いもので、新型コロナウイルスの流行からまもなく、3年の月日が経とうとしています。その中で、私たちの生活も大きく変わり、今回紹介している研修などについても、オンラインとオフラインのハイブリット型の研修が増えました。少しずつ、新しい生活の形を見出す中で、「かがやき」という名前の通り、明るい情報をこれからも伝えて行きたいと思います。

(調布福祉園 坂口 啓)